

自信を持って、いろいろなことに進んで取り組む子

田 中 信 子

はじめに

本年度本校に転入してきたR子は、筋緊張が強く、自信がなくて、何をするにも自分から進んですることはなく、明るさに欠け、友だちと協力したり、一緒に遊んだりすることが少なかった。

こうしたR子が、友だちや先生との関わりの中で、からだを力いっぱい動かすことをとおして、自信を持って、意欲的にいろいろなことに取り組むようになった経過を述べてみたい。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- 昭和54年11月30日生 10歳 小学部3組 女子
- 環境性の精神発達遅滞。
- 1年保育の後、公立小（普通学級）より本校小学部5年生に編入。
- 家族は、両親、弟、妹の5人。両親とも働いているので、R子の世話がゆき届きにくい。

(2) 発達検査等による実態

- 津守式発達検査（平成2年5月）

運 動	探 索	社 会	生活習慣	言 語
7 : 0	6 : 6	6 : 6	6 : 6	6 : 0

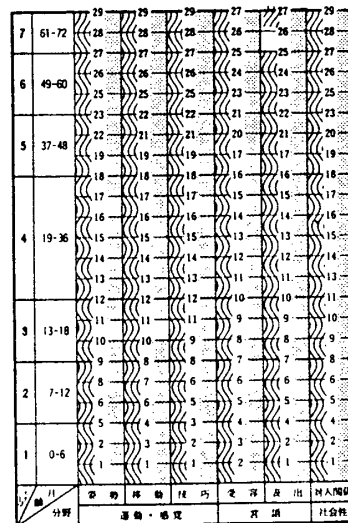
- ・大体6歳～7歳の発達を示す。言語面での遅れが見られる。

- MEPA

右の図から大体すべての項目において7ステージの段階である。

(3) 身体・性格・行動上の特徴

- ローレル指数（109）偏食がありやせている。
- 機嫌のいい時は、明るく素直であるが、自分の気に入らないことがあると、乱暴な言葉を使うことが多い。
- 物事をする際に自信が持てず、ひとりで取り組むことができないことがある。
- 話す際に語尾がはっきりせず、聞きとりにくいことが多い。緊張すると吃音になる。
- やや体が堅く、不必要な緊張が見られ、全体的に動きにぎこちなさがある。
- 走・跳は得意だが、ボール・なわとび等の手具を使う運動は器用さがないので不得手である。
- 巧緻性に劣り、箸の持ち方等ぎこちない。



氏名	R・H	男女	年月日
第1回検査	112年 4月 11日	女	歳 月 日
第2回検査	112年 10月 11日	女	歳 月 日

2 取り組みの構想

(1) 指導仮説

上記の実態からR子が、自信を持って、いろいろな活動に進んで取り組む姿をめざし、仮説を次のように設定した。

個人目標 自信を持って、いろいろなことに進んで取り組む子

つきたい力 ・友だちや先生の励ましによって自信を持って取り組む力
・自分でやろうとし、最後までやりとげる力

仮説 R子は、未経験なことが多く、持っている能力が十分に発揮されていない。そこで、少しの援助を受けていろいろなことに取り組みせ成就感を味わわせ自信を持たせていきたい。そして、少しずつ援助を減らしていくことが必要だと考える。先生の示範や、友だちの模倣で、見通しを持たせ、友だちの世話をすることで得る満足感、自信が更に意欲を高め、進んで行動できる子に近づいていくと考える。

からだ像 進んでからだを動かすことを楽しむ子

(2) 指導方針

- 好きな事をとおして意欲的に行動させ、できるだけ賞賛を与える。
- 学校生活全体で、援助や励ましを与えて、未経験のことにも、恐れず関わっていかせ、できる経験を増やしていく。
- 友だちと関わる場面を大切に、友だちと協力したり、世話をしたりすることに喜びをもたせる。

3 指導の実際

(1) リズム・サーキットでの取り組み

からだを動かすことから出発し、遊び的要素をもった「おさるのかごや」や「ぶらんこ」の曲に合わせてゆったりとゆすってもらう活動は、R子の活動意欲を満たし、自分から進んで取り組む力が発揮できる場であり、R子を育てる大切な場にしようと考えて、

- ①楽しい雰囲気の中で体を動かすことを楽しませること。
- ②めあてを持たせ、できる満足感や成就感を味わわせること。
- ③友だちとの関わりがもてること等に配慮した。

以下の表はR子の参加の様子の一部である。



手押し車に励むR子

	初めの実態と手だて (5月)	変容の様子 (10月)
あひる歩き	<ul style="list-style-type: none"> つま先立ちバランスがとれず、途中で休んでいた。 →バランスを保つ程度に棒で援助する。	<ul style="list-style-type: none"> 親指に体重をかけて歩き、往復とも棒なしでできるが、バランスが崩れやすい。
ころがり	<ul style="list-style-type: none"> つま先でのけりや背筋が弱く、まっすぐにころがれない。 →軽くひねりの援助をする。手を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> 腹筋、背筋を使って連続してころがる。
おさるのかごや	<ul style="list-style-type: none"> 棒が正しく握れない。 棒を握り、5m程度ひとりでぶらさがる。 →正しい握り方、着地ができるよう足を前に上げる。	<ul style="list-style-type: none"> 正しい握り方で棒を握り、15m程度までひとりでぶらさがる。 他児の世話や用具の片付けを進んでする。
ぶらんこ	<ul style="list-style-type: none"> 全身の力をぬくことができない。 くすぐりもあまり嬉しそうでない。 →ゆったりとゆすってあげる。ゆすり方の大きさを変えたり、回数に変化をもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> 力をぬいてゆれを楽しむ。 くすぐりをとっても喜ぶ。 待っている間、元気よく「ぶらんこ」の歌を歌ったり、数を数えたりする。 する側になって、小さい子の足の方を持って先生と一緒にゆらしてあげる。

二学期より、手押し車とバンブーを加えた。R子には、適切な運動であり意欲的に取り組んだ。

チェック表 (R子)

あひる歩き		ころがり		ぶらさがり		手押し車		バンブー	
5月	10月	5月	10月	5月	10月	9月	10月	9月	10月
3	4	3	5	3	4	4	5	4	5

右表は、R子のリズム・サーキットの評価である。どれも確実にこなし成果が見られた。

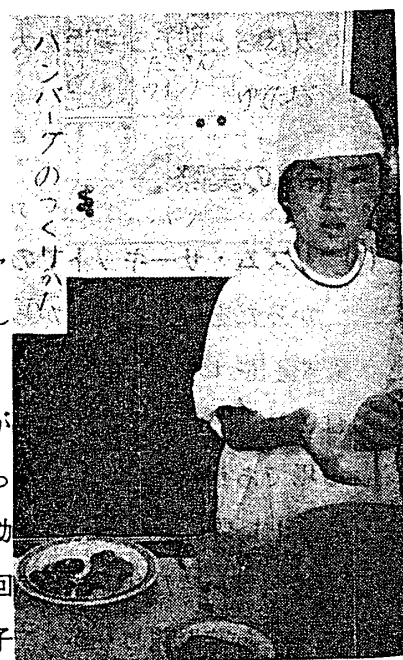
(P21の表参照)

(2) 生活単元学習による取り組み

①「宿泊学習」の実践

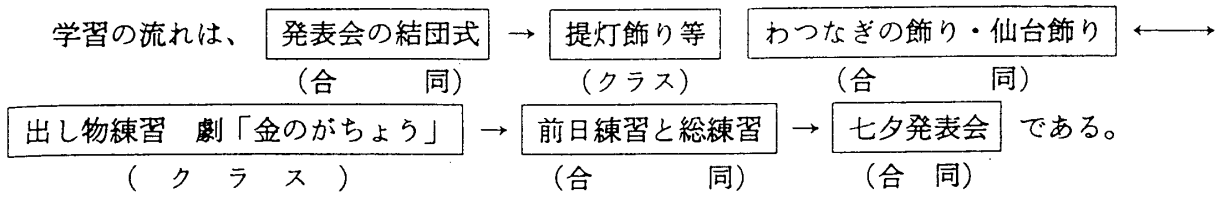
R子は、本校に来て初めて宿泊学習を経験した。ふとん敷き、背中洗い、調理(カレー、ハンバーグ作り等)アスレチック、キャンプファイヤー等を経験し、回を重ねる毎に、庖丁の使い方についても、正しくできるようになり、進んで調理をした。

R子は、宿泊を1年生から何度も経験していろいろなことができるY子を見習ったり、競争したり、協力したりすることによって、少しずつではあるが、できることが増え自信を持って、行動することが多くなってきた。同じ活動でも、1回目よりは、2回目はすこし高度な目標を持たせ、その活動を援助してきた。R子は、何度も繰り返すことによって見通しを持って取り組めた。

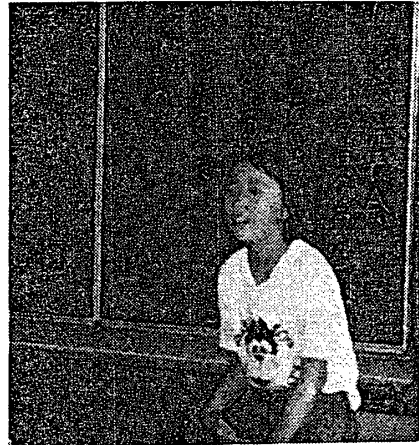


ハンバーグ作りのR子

②「七夕発表会」での実践



R子は、七夕発表会の司会・進行役を自分からしたいと言っていることになった。前回「少年自然の家宿泊」でのお礼のあいさつは、やはり、本番になると小さい声になり、はっきりと言えなかったもので、今回は、どうしても成功させたかった。R子は、やる気を出して、何度も黒板のプログラムを見ながら練習した。初めは、プログラムの順番をまちがえたり、早口に言ったり、吃音したり、声が小さかった。練習をしていくうちに、だんだん自信がついて上手に言えるようになってきた。クラスの友だちY子、M男の応援もすばらしかった。いよいよ当日、



司会・進行をしているR子

たくさんの保護者や先生方、友だちの前での司会・進行は、やはり緊張していたが、練習の成果が見られ成功した。

R子は、お母さんに、招待状を出したが休みがとれなくて見に来てもらえなかった淋しさを喜びに変えたようだった。この学習でR子が経験したことは、わたしもやれるんだという自信とやって良かったという満足感である。司会・進行役でのがんばりは、劇や合同学習にも影響し、自分の力をいっぱいに出せた楽しい行事への参加となった。

4 考察と今後の課題

自信がなくて、何事にも消極的であったR子が、小学部のみんなと一緒に明るい笑顔で行動することが多くなってきた。子どもの国での「炊飯遠足」では、班長として小さい子の世話も進んでやっていた。2学期より、朝の10分間マラソンは、高等部のお兄さん、お姉さんに負けないほど頑張って走り続け、連合運動会では表彰状をもらった。昼掃除の放送を聞いて、一番に取り組む姿が見られたり、毎日、係活動（おやつ係）の準備は自分がすると主張し、後始末も友だちと協力してやることが多くなってきた。今まで、援助や励ましを与えて、成功体験を積み重ねてきたことが、自信を持って、進んで取り組む子を育ててきたと思う。

今後は、友だちや先生の援助が少なくても、自信を持って、いろいろなことに進んで取り組んでいけるよう指導していかなければならないと考えている。又、家庭との連携を今よりもっと密にしていきたい。



10分間マラソン

表 彰 状

小女500M の部
第 9 位

あなたは第27回東部心障
研連合運動会のマラソン競技
において最後までよくがんばり
立派な成績をおさめられました
ここにその栄誉を讃えます

平成2年10月2日
会長 徳永 好三